

2023年度点検・評価シート入学者数（および在籍者数）

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針  
 【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。
- ・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	04 英米文学科	責任者	ジョージ・ウォレス
基準5	学生の受け入れ	自己評価	C
★基準5の自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
<<回答>> 学生の受け入れ方針に基づいて入試を実施しており、学生募集や入試の運営体制については適切と判断するが、収容定員に対する在籍学生数が0.9未満、入学者数の充足率が0.8未満であるため、C評価の判定とした。			
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。		
★<学生の受け入れ方針>（記入してください。） 1. 知識・技能 英語圏の言語、文学、文化を学ぶ上で、十分な基礎学力を身につけている。 高校で培った基礎学力に基づき、英語力や知識、教養を深めることができる。 2. 思考力・判断力・表現力 英語圏の言語、文学、文化が現代社会において持ちうる重要性を発見し、洞察力を深めることができる。 3. 主体的に学習に取り組む態度 英米文学科で学んだ英語力や知識、教養を実践的に活用する意欲がある。			変 有 ( ) 更 無 (✓)
評価の視点1※ 【基礎要件●】	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針、基礎要件確認シート 15		
評価の視点2※ 【基礎要件●】	方針には、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像を踏まえて設定している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針		
評価の視点3※ 【基礎要件●】	入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示され、公表している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針		
◆学生の受け入れ方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。（ない場合は「なし」と記入）			
<<回答>> なし			
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。		
評価の視点1※	学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報、B5-2 入学試験要項（一般、公募制推薦、自己推薦、社会人、編入学、科目等履修生、外国人留学生）、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程		
評価の視点2※	授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供を適切に行っている。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報		
評価の視点3※	学科ごとに入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備している。 根拠資料→A3-11* 入学センター規程、B5-15 部局内入試委員会名簿		
評価の視点4	公正な入学者選抜を実施している。根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程		
★項目(2)5-2①公正な入学者選抜を実施するため、どのような取り組みを行っているか、根拠資料を用いて回答してください。			
<<回答>> 公正な選抜が実施されていることを検証するために、学科内に入試関係(入試判定)委員会を設置している。当委員会の委員より、4月の学科会議で直近の入試結果に関する分析が提示され、学科全体で確認している。		<<資料名>> 04-C5-1: ①2023年度学科内委員表 ②2023年4月6日第1回学科会議議事録	

<p>★項目(2)5-2②オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施（オンラインによる入学者選抜を検討していれば、実施する場合における課題やメリット等を記述してください。）</p>	
<p>《回答》 オンラインによる入学者選抜は実施しておらず、実施の予定もない</p>	
<p>評価の視点5</p>	<p>入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。（一般入試及び多様な入試への対応） 根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程</p>
<p>★項目(2)5-2③オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の配慮等）（オンラインによる入学者選抜を検討していれば記述してください。）</p>	
<p>《回答》 オンラインによる入学者選抜は実施しておらず、実施の予定もない</p>	
<p>◆学生募集及び入学者選抜について問題点があれば記述してください。（ない場合は「なし」と記入）</p>	
<p>《回答》 なし</p>	
<p>点検・評価項目(3)</p>	<p>5-3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。</p>
<p>評価の視点1※ 【基礎要件●】</p>	<p>学科の入学者数は、入学定員に対して適正な数である。 注：定員管理の指針 入学定員に対する入学者数比率（5年平均） 定員超過→実験実習を伴う分野 1.20 以上(改善課題)、1.25 以上(是正勧告) 上記以外の分野 1.25 以上(改善課題)、1.30 以上(是正勧告) 定員未充足→0.90 未満(改善課題)、0.80 未満(是正勧告) 根拠資料→大学基礎データ表2、基礎要件確認シート16</p>
<p>評価の視点2※ 【基礎要件●】</p>	<p>学科の在籍学生数は、収容定員に対して適正な数を維持している。 注：定員管理の指針 収容定員に対する在籍学生数比率 定員超過→実験実習を伴う分野 1.20 以上(改善課題)、1.25 以上(是正勧告) 上記以外の分野 1.25 以上(改善課題)、1.30 以上(是正勧告) 定員未充足→0.90 未満(改善課題)、0.80 未満(是正勧告) 根拠資料→大学基礎データ表2、基礎要件確認シート16</p>
<p>評価の視点3</p>	<p>収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応</p>
<p>★項目(3)5-3 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足がある場合、当該部局としての改善策（今後実施予定のものも含む）根拠資料を用いて回答してください。</p>	
<p>《回答》 在籍学生数の未充足を改善するため、指定校選定や各種推薦入試の入試概要について見直しを行う。また、学科内に入試関係（入試戦略）委員会を設置し、英米文学科での学びの魅力を受験生に広く知ってもらうための方策を検討し、推進する予定である。</p>	<p>《資料名》 04-C5-2： ①2023年4月6日第1回学科会議議事録 ②2023年5月8日第3回学科会議議事録 ③2023年度学科内委員表</p>
<p>点検・評価項目(4)</p>	<p>5-4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>
<p>評価の視点1※ 【評価要件○】</p>	<p>適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 根拠資料→B2-51 2023年度点検・評価シート B2-52 会議録（または準ずるメール記録）：(開催日) 2023年度自己点検・評価について</p>
<p>評価の視点2 【評価要件○】</p>	<p>点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っている。</p>
<p>★項目(4)5-4 改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。</p>	
<p>《回答》 「学生の受け入れ方針」の主に「1. 知識・技能」に関連して、かねてより推薦入試合格者に対して入学前指導としてe-learningを導入している。また、毎年、新入生に対して英語プレイスマントテストを実施し、学生の入学時の英語力の把握に努めている。</p>	<p>《資料名》 04-C5-3： ①2022年4月8日第1回学科会議議事録</p>

<p>志願者確保に向けた入試広報戦略としては、下記(i)~(iii)の取り組みを実施している。</p> <p>(i) 指定校を見直し、各種推薦入試の概要を変更した。</p> <p>(ii) 例年 11 月頃にオンライン読書会・オンライン体験授業を開催しており、今年度も学科内オンライン読書会委員会を中心にオンラインでの読書会・体験授業を企画している。</p> <p>(iii) 新たな広報戦略を検討するための委員会として、入試関係（入試戦略）委員会を設置した。</p>	<p>②2022年5月9日第3回学科会議議事録</p> <p>③2022年11月28日第11回学科会議議事録</p> <p>④2023年4月6日第1回学科会議議事録</p> <p>⑤2023年5月8日第3回学科会議議事録</p> <p>⑥2022年度学科内委員表</p> <p>⑦2023年度学科内委員表</p>
--	--

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

<p>長所・特色</p>	<p>学科の広報活動として、2021年度からオンライン読書会・体験授業を実施しており、より多くの受験生に英米文学科での学びがどのようなものかを具体的に知ってもらう機会を設けている。</p>
--------------	--

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

<p>問題点・課題</p>	<p>英米文学科での学びの魅力や意義を周知するために、学科リーフレットの作成、学科 HP や大学案内（Crossing）の内容の見直し等を検討する予定である。</p>
---------------	---

IV 【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B 票№ or 開始年度	改善計画（アクションプラン）	内容（改善を要すると判断した根拠）	目標の評価指標	目標値	年度計画
①	5	2023 (2022～継続)	学科型推薦型選抜（指定校・一高・公募）、総合型選抜（他大学併願可能型・専願型）入試合格者への入学前指導	標記推薦入試合格者に対して、英米文学科の勉学に関わる課題を課し、学力水準の維持及び向上、また入学後スムーズに学生生活を始められるように支援する。入学前指導を行うことにより、合格発表から入学までの期間を効果的に利用する。E-learning（英検 CAT）を導入。	1月から3月の3か月間、標記の推薦入試合格者に対して『英検 CAT』の課題に取り組んでもらい、全対象者が少なくとも『英検 CAT』の英検 2 級レベルの語彙学習を完了できるようにする。管理者となる教員が各対象者の学習の進捗状況を随時確認し、学習が滞る対象者には学習を促す。	A(100%)：完了・総括 B(80%)： C(50%)： D(20%)：	2023：A
④	7	2023 (2022～継続)	英米文学科主催「高校生対象オンライン読書会・オンライン体験授業」の開催	英米文学科が主催し、高校生を対象とした「オンライン読書会・オンライン体験授業」を開催する。全国の高校生に本学科の存在を強くアピールし、知名度の向上を図る。（他大学とは、一線を画した独自色の強い「英米文学科」作りを推進する。）また、読書会体験、文学・文化・言語に関する体験授業を通して「大学で英語を学ぶ」という魅力をアピールしてゆく。	2023 年秋の開催に向けて、前期中に (1) より参加者にとって魅力的かつ学科アピールとして効果的な内容の模索 (2) より広く社会に向けた学科のアピールが実現できる告知の計画 に焦点を当てながら準備を進める。 実施後には、何らかの形で参加者よりフィードバックを提	A(100%)：B の状態を保持 B(80%)：高校生・既卒生参加者のみで定員（各回 15 名：計 30 名）を満たす C(50%)：高校生・既卒生＋一般参加者で定員を満たす。 D(20%)：高校生・既卒生＋一般参加者で定員半数を超える。	2023：D 2024：C 2025：B 2026：A

					供してもらい、翌年度以降の開催に活用する。		
--	--	--	--	--	-----------------------	--	--

V 【内部質保証委員会による点検・評価】

<p><b>2022年度&lt;所見&gt;</b></p> <p>学生の受け入れ方針は、学位授与方針、教育課程の編成方針との一貫性が、web サイト等の根拠資料から明確である。求める学生像や入学希望者に求める水準等の判定方法についても、web サイトによって明らかにされている。学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していること、学科ごと入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備し、公正な入学者選抜を実施していることについても、web サイトその他の根拠資料から、確認することができる。</p> <p>また、2022年度に定員割れしたが、入学定員に対する入学者数比率（5年平均）は0.98となっている。収容定員充足比率も0.94と適正範囲で管理されていることは評価できる。さらに、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価する作業も行われていることが根拠資料から確認できる。改善・向上への取り組みも、学科内入試委員会が設置されて協議されていることは評価できるが、今年度の定員割れの原因を分析し、対策を検討することが望まれる。</p>
<p><b>2023年度&lt;所見&gt;</b></p> <p>学生の受け入れ方針は、学位授与方針、教育課程の編成方針との一貫性が、web サイト等の根拠資料から明確であった。求める学生像や入学希望者に求める水準等の判定方法についても、web サイトによって明らかにされている。学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定され入試に関わる各種委員会等を設置している。オンラインによる選抜は検討されていないが、入学者選抜実施のための運営体制を整備し、公正な入学者選抜を実施していることが評価できる。しかしながら、2年連続で定員割れしており、2023年度入試における入学定員充足率は0.62、入学定員に対する入学者比率（5年平均）は0.90であり、収容定員充足率も0.86になっている。このような、在籍学生数の未充足を改善するため、指定校選定や各種推薦入試の入試概要について見直しを行い、学科内に入試関係（入試戦略）委員会を設置し、英米文学科での学びの魅力を受験生に広く知ってもらうための方策を検討し推進することや、英米文学科での学びの魅力や意義を周知するために、学科リーフレットの作成、学科HPや大学案内（Crossing）の内容の見直し等を検討する予定としていることから、ロードマップ等の具体的な行動計画及び目標値を立て着実に実行されることが望まれる。</p>

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部局の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	<p>大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。</p> <p>（評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部局の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合）</p>
A	<p>大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。</p> <p>（評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合）</p>
B	<p>大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。</p>
C	<p>大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。</p>

<注> 「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

<p><b>基準5 学生の受け入れ</b></p> <p><b>【大学基準】</b></p> <p>大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。</p> <p>（解説）</p> <p>大学は、その理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定</p>
--

め、公表しなければならない。また、入学定員及び収容定員を適切に定め、公表しなければならない。

大学は、その受け入れ方針に基づき、高等学校教育と大学教育との関連、社会人、帰国生徒及び外国人留学生の受け入れ、飛び級、編入学、転科・転部など、国際的規模での社会的要請に配慮し、適切な入学者選抜制度及びその運営体制を整備し、入学者選抜を公正に行う必要がある。

大学は、教育効果を十分に上げるために、入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しなければならない。

大学は、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。